

関西大学

東西学術研究所紀要

52

論説

- 長澤蘆雪 — 流派を越えて — 中谷伸生 (3)
- 内藤文庫所蔵の文淵閣四庫全書について
— 附：長澤文庫所蔵の文淵閣四庫全書 吾妻重二 (15)
- 陽和院書状にみる「長恨歌図屏風」
— 元禄十四年の屏風制作の一例 — 村木桂子 (41)

研究ノート

- 敦煌曲子詞訳注稿 (二) 長谷部剛・橘千早 (65)
- 大西家所蔵番外曲〈豊崎宮〉等について 関屋俊彦 (73)

資料紹介

- 願海編著・冷泉為恭画『仏頂尊勝陀羅尼明驗録』 日並彩乃 (85)

論説

- Evolution 如何译为“天演”? 沈国威 (3)
- リンカーン伝記作家としての内ヶ崎作三郎
— 忘れられた文化史家の国際感覚と政治姿勢について — 陶徳民 (21)
- 唐代営州における契丹人と高句麗人 森部豊 (35)
- 茨木市立文化財資料館蔵『七秘蹟と七美德がある主の祈りの
七祈願 (いわゆる「天使讚仰図」)』について 蛭川順子 (51)
- Scribal glosses to *Elde* and *Earth* in London, British Library,
MS Harley 913 和田葉子 (79)
- 後期近代における「死にゆく過程」と東西の文化的自己 村川治彦 (93)
- The *Amra Coluim Cille*: Sources, Structure and Style
..... パトリック・オニール (109)
- 乾隆年間廣東貿易における外国産棉花の輸入をめぐる 松浦章 (125)
- 明治・大正期の中国語口語文法書における
語気詞名称の由来と伝承 盧驥 (147)
- 日本近代洋画における青木繁の風景画 高橋沙希 (163)
- 大英国を訪れた蒲安臣使節団と岩倉使節団
— 1870年前後の英字新聞をめぐる — 黄逸 (191)
- 梁文干と『梁温如家訓』について 佐藤トウウエン (229)
- 近代岡山における泊園書院出身者の事業活動の一考察
— 実業家星鳥謹一郎・中野寿吉を中心に — 横山俊一郎 (249)
- 東西学術研究所 2018年度 研究班一覧表 (267)

二〇一九年四月

関西大学東西学術研究所

東西学術研究所紀要

第五十二輯

(二〇一九年四月)

関西大学東西学術研究所

BULLETIN OF THE INSTITUTE OF ORIENTAL AND OCCIDENTAL STUDIES, KANSAI UNIVERSITY

No. 52

APRIL 2019

CONTENTS

Articles

- Nagasawa Rosetsu: Beyond the Painting Schools NAKATANI Nobuo (3)
- On Wensuge Siku-quanshu Books in the Naito Bunko Collection,
Kansai University AZUMA Juji (15)
- “The Song of Everlasting Sorrow” Screen Written in Yōwain Letter:
An Example of Screen Creation in 1701 MURAKI Keiko (41)

Study Notes

- Translations and notes of Dunhuang Quzici II
..... HASEBE Tsuyoshi and TACHIBANA Chihaya (65)
- Bangai-kyoku (the Extra Numbers) Possessed by the Ohnishi Family
and Toyosaki-no-miya (the Toyosaki Shrine) SEKIYA Toshihiko (73)

Communications

- Gankai and Reizei-Tamechika “*Buccho-Sonshodarani-Meigenroku*”
..... HINAMI Ayano (85)

Articles

- How “Evolution” can be Interpreted as “天演” SHEN Guowei (3)
- Uchigasaki Sakusaburo as a Biographer of Abraham Lincoln:
The Forgotten Cultural Historian’s Global Awareness and
Political Stance TAO De-min (21)
- Khitan and Goguryeo at Yingzhou in the Tang Period MORIBE Yutaka (35)
- The *Seven Petitions of Oratio Dominica with Seven Sacraments*
and *Seven Virtues* preserved in the Ibaraki Municipal
Museum of Cultural Assets NINAGAWA Junko (51)
- Scribal glosses to *Elde* and *Earth* in London, British Library,
MS Harley 913 WADA Yoko (79)
- Social and Cultural Aspects of the Japanese Attitudes towards
Dying Process in the Late Modernity MURAKAWA Haruhiko (93)
- The *Amra Coluim Cille*: Sources, Structure and Style Patrick P. O’Neill (109)
- The Import of Cotton in Guangdong during the Qinglong Era
..... MATSUURA Akira (125)
- Etymology and Inheritance of terms for modal particles in Chinese
grammar books from the Meiji era to the Taisho era LU Xiao (147)
- Aoki Shigeru’s Landscape Painting in Japanese Modern Oil Painting
..... TAKAHASHI Saki (163)
- Modern East Asian Embassies in Great Britain:
— Anglo-American Newspapers Around 1870 — YI Huang (191)
- Luong Van Can and “Luong On Nhu Family Precept”
(『梁温如家訓』) SATO Thuy Uyen (229)
- Business activities of two graduates of Hakuen Shoin
— Hoshijima Kinichiro and Nakano Jukichi —
in the modern Okayama Prefecture YOKOYAMA Shunichiro (249)
- Summaries of the Research, 2018 (267)

EDITED BY

THE INSTITUTE OF ORIENTAL AND OCCIDENTAL STUDIES
KANSAI UNIVERSITY, OSAKA

和田葉子研究員から引き継ぎ今回編集委員長を務めることとなった。各研究班の主幹が委員長を務めるということで、新年度から班構成が大幅に変わり主幹の責をようやく下せることになったのに伴い、編集長の重責も今回のみで終了するが、平成最後の発刊となる記念すべき号を担当できたのは幸いである。

今年度はさる十月二六、二七日の両日にかけて本研究所の創設者ともいえる石濱純太郎博士の没後五〇年記念シンポジウムが開かれ、多くの関係者が本研究所創設時に思いを寄せ、これまでの歴史を振り返る良い機会を得た。また、総合図書館では併せて展示会「石濱純太郎とその学問・人脈」(十月二三日～十一月十七日)が催され、新たに発見された卒業論文「歐陽脩巧究」の自筆原本、散逸されたものと考えられていた日記をはじめとする初公開の貴重な資料に直接触れる幸せな時間を持つことも本学の研究条件の良さとそれを活かした研究の厚さを象徴しているといえよう。本研究所のこれまでの粹にはまらない豊かな研究領域とその成果を振り返るとき、石濱純太郎博士をはじめとする創設者および歴代の研究者諸氏の思いをそのまま受け継いできていると改めて実感できる。自由闊達な研究スタイルの上にさらなる深化をと今後の発展に期待したい。

さて、本紀要であるが、今回は十九本の素晴らしい玉稿をお寄せいただいた。まずは、執筆してくださった諸氏、ご多忙中にもかかわらず査読に時間を割いてくださった先生方に心より御礼申し上げます。

十九という数はちょうど掲載論数が目に見えて増加し始めた第四六輯とほぼ同数である。それ以後は、最も多い時で三五本総七七〇頁を超える平装本装丁の限界とも思える大冊を続けて刊行してきているが、六年ぶりに旧状に復したといえよう。研究員の研究概要として当該年度の研究報告書を掲載していたのを、研究班一覧表のみを残し、研究所所報へと移行したのも第四七輯からであり時期を同じくする。このような事情を反映してのことであつたらうか。

編集後記

今回も投稿希望者数は三五名と多かったのであるが、辞退および査読により不可とされたもの併せて十六となり、結果十九本となった。編集に係る前号からの変更点として掲載の可否について各研究班の主幹の判断を通して提出いただいたが、その結果フィルターをかけることとなり、より完成度の高い原稿が集まったといえよう。また、すでにしっかりと定着しているレフリー制であるが、今回は、さらにその精度を高めるために紀要委員のほかに執筆者が属する研究班の研究員の先生に特に査読をお願いした。

何もわからないまま却って煩瑣な仕事を増やしてしまうような頼りない名ばかりの委員長を支え助けてくださった編集委員の二階堂善弘研究員、鼓宗研究員、何よりも実質的に最も大変な作業を進めていただいた奈須智子氏をはじめとする事務局のスタッフに心より御礼申し上げます、無事に上梓できたことを寿ぎたい。(女 幸子)

二〇一九年四月一日発行

発行 © 関西大学東西学術研究所

所長 沈 国 威

〒五六四一八六八〇

大阪府吹田市山手町三丁目三番三五号

電話〇六一六三三八一〇六五三番

FAX〇六一六三三九一七七二番

編集者 関西大学東西学術研究所

編集委員長 玄 幸子

編集委員 鼓 宗

二階堂 善弘

印刷者 株式会社遊文舎